

多文化共生の地域づくり ● 日本語を学ぶ

外国人が市民として生活していくには、日本語の習得が不可欠です。外国人市民へ日本語を学ぶ場を提供することは、日本語指導のみではなく様々な行事を通じて外国の方達と交流を深め、お互いに自国の文化や生活習慣を紹介し合い理解を深めるきっかけにもなります。

甲賀市国際交流協会では、外国人市民への支援の一環として、

日本語教室を開講しています。

この日本語教室は、日本語学習支援グループ「和(なごみ)」の皆さんにより、毎週金、土曜日に開催されています。現在、ブラジル、中国、インドネシア等の数力国の方が延べ約90名受講されており、日本語教室のニーズの高さがうかがえます。代表の勝尾さんにお話をお聞きしました。



日本語学習支援グループ「和」代表 勝尾 美佐さん

「ありがとう」「笑顔」が最高の励み

日本語支援に携わって、約10年になりますが、異文化に接して知る喜び、また逆に、日本の社会が見えてくる喜びを実感しています。

ボランティアの不足や、場所等の条件などいろいろ苦労することもあります。受講生の喜

ぶ姿や「ありがとう」の一言がすべてを喜びにしてくれます。

ふれあうことが 共生につながる

教室で多くの外国人と接していると、自然と外国人意識がなくなつてきます。ふれあうことがお互いを知り、つながりを広げる方法だと思えます。

まちでは多くの外国人を見かけます。ふれあうことができる機会は他の分野でも多くあると思います。いろいろな目的でいろんな交流の場ができ、だれもがどこの国の人も普通に接することができ、そんなまちを願っています。



教室の風景

日本語教室に携わって ボランティアの方の声

外国語が分からないと外国人を敬遠してしまいがちですが、それが孤立につながります。

海外に一人いるとき気持ちは不安です、少しでもその気持ちを和らげたいと思います。

もし今災害が起こったら彼らはどうするのか、それを思うと少しでも手助けしなければと思います。

見かけの文化の違いだけでお互いが距離をとっていますが、話をするとみんな同じまちな仲間です。

点ではなく線で盛り上げられたいと思います。だれもが意識することなく気楽に住めるまちになればいいと思います。

2007日台親善少年野球交流大会

野球と
野球が育む
友好

8月13日(月)から15日(水)まで、2007年日台親善少年野球交流大会が甲賀市民スタジアムで開催されました。台湾からは小学生野球チーム「新竹實驗國小棒球隊」の皆さんが訪れ、市内の野球スポーツ少年団と交流試合が行なわれました。

日本でも、台湾でも少年の野球に対する熱い思いは同じ、選手の皆さんは、互いに交流を深め、暑さに負けず日頃の練習成果を十分発揮し熱戦を繰り広げました。

今大会は、合併前から野球を通じ交流を重ねてきた甲賀市スポーツ少年団貴生川ビクトリーズが中心となって行われました。今後もより一層友好と親善を深め、両国の青少年スポーツ発展のため寄与していただきたいと思います。



貴生川ビクトリーズ VS 新竹實驗國小棒球隊

中嶋市長による始球式